

○5番（山崎 まゆみ君） 山崎まゆみです。おはようございます。冒頭に一言述べさせていただきます。2月初めにあまりにもショッキングで残念なニュースがあり、東員町議会議員1名が辞任いたしました。町民の立場になって働く議員として、町民に対する背信行為と言えらると思います。政治そのものに対して不信感を持たれ、そんな有権者も少なくないと思います。議員に最低限必要な質が正直で誠実であることだと思います。3月議会一般質問での議論、よろしくをお願いします。

通告書に従いまして質問させていただきます。協働のまちづくりについて、1、おみごと東員人の取り組みについて、目的と進捗はいかがですか。コミュニティづくりでの活用はいかがですか。2、町民と行政のパートナーシップについて、1、町民の人材育成はどうのようですか。各種講座を受講された町民、エンパワーメントされた町民、すなわちどんどん力を付けられた町民がまちづくりや地域活動に繋がるような取り組みはありますか。若者から高齢者まで幅広い年代の人々、そして社会的弱者にされがちな人々、具体的には女性、高齢者、障がい者、外国人、災害等の被害者などの活躍する場についていかがですか。人づくり、場づくり、役割づくりについてどのように展開していきますか。以上、答弁よろしくをお願いします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） おはようございます。協働のまちづくりについてご質問いただきましたので、お答えさせていただきますと思います。

1点目の、活躍する町民の方々をおみごとな人として紹介する取り組みにつきましては、東員町のまち・人・仕事総合戦略に掲げております、若者、女性、高齢者、障がい者などが活躍できる地域づくりに基づき、その施策として実施いたしております。地域で活躍する町民の方々を紹介し、広く知っていただくことで、活躍する皆様が一層その活動の質や幅を向上させていただくことを狙いとしております。この取り組みは平成29年度より東員町ホームページからリンクしております特設サイトで紹介いたしております他、広報とういんの裏表紙にも掲載してございまして、今までに53人の方々を取り上げております。今月号には山崎議員のお嬢さんである山崎さくらちゃんを取り上げさせていただいております。紹介した方の中には、自身の特技を活かして地域のサロンなどで活躍している方、歌声喫茶など新たなコミュニティの場を創出された方など、地域づくりに一役買っていただいております。またここでの紹介により、他の活動内容を知り得たことによって、紹介された方々がお互いに連携をするといったケースも出てきております。

2点目の、町民と行政のパートナーシップについてお答えいたします。町民の皆様

がまちづくりについて学んでいただける場として、まちづくりシンポジウムやおみごと活躍セミナー、世話やき人講座や男女共同参画講座などを開催いたしております。こうしたセミナーや講座に参加されたことによって、観光振興会で活躍することになった方や、市民活動支援センターに登録された方、婚活支援の世話やき人として登録していただいた方など、こういう方があらわれております。セミナーなどのアンケート結果から見ても、こうした取り組みが参加いただいた方々の行動を起こすきっかけになったことや、ヒントを得ていただく機会になったものと感じております。

次に、様々な年代や立場の方の活躍できる場についてご答弁申し上げます。国は平成28年6月にあらゆる立場の方があらゆる場で、だれもが活躍できる全員参加型の1億総活躍社会の実現を目指すという趣旨の、日本1億総活躍プランを閣議決定いたしました。少子高齢化、人口減少が進む中、住民一人一人が自分のまちを愛し、誇りをもって活躍し、こうした一人一人の活躍が積み重なり、大きな力となって持続可能な世界に向けた地域を形成していくという理念は、今後求められる社会づくりであると思えますし、考え方、方向性は間違っていないと思っております。

本町におきましては、それ以前から農福連携事業や、障がい者の一般就労などや若者の農業への参入、また子育て環境を充実させることにより、女性の社会進出を促す取り組みなどを進めてまいりました。これからは急速な高齢化を迎えている本町にとりまして、特にシニア世代の方々がそれまで培ってきた能力を発揮し、地域づくりに活躍していただける仕組みづくりを進めていかなければならないと考えております。行政といたしましては、東員町のまちづくりにかかわっていただくためのきっかけづくりは重要な取り組みと考えておりまして、今年度は政策課が毎年実施いたしておりますセミナーで、町内で活躍する団体の事例紹介を行い、参加者にワークショップをしていただきました。参加者の皆様には、長期的な視点で町のあるべき姿を考える場や、町民同士が情報交換できる場として活用いただけたものと考えております。これからもこうした機会の提供を継続していくことは当然でございますが、就業の場の創出や活躍していただけるメニューづくりなどを整え、町民の皆様が町内で活躍していただけるための人づくり、場づくり、役割づくりに取り組んでまいります。

また、協働には様々な形がありまして、こうした町民の皆様との協働の他に、大学や民間企業との協働というものもございます。現在も複数の分野で三重大学との連携による事業を進めている他、農業分野等で民間企業との協働も進めておりまして、今後もさらにこうした連携を発展させていきたいと考えております。こうした取り組みの中で、地域内で人、物、金が循環する仕組みを構築していくことが、自立した持続

可能な地域づくりに繋がるものと考えております。

以上でございます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。答弁にもありました、数年前から毎年東員町で開催されているおみごと活躍セミナーは、テーマとかキャッチフレーズとか副題とかが、みんなが元気で活躍するまちとか、縮小ではなく縮絨、みんなで楽しく作るまちとか、みんなのおみごとがあふれるまちとかで、まさしくわくわく感が伝わるし、インパクトがあり非常に魅力的なテーマ設定をされています。その魅力的なテーマ設定からどんなプロジェクトなのかなと私も初回から期待感いっぱい毎回参加し続けている町民の一人です。藻谷浩介さん、山崎亮さん、山田桂一郎さん方講師陣のお話は東員町の未来に夢や希望が持てるようにまちづくりに主体的にかかわっていこうという熱いエール、パワーを与えられます。自分たちのまちをよりよく変えていくとか、行政に頼るばかりでなく提案実行型の方が豊かで楽しいですよとか、いつでもだれでも対等に気さくに行けるほうが幸せですよとか、参加者の顔ぶれは地域で様々な活動をしてみえる若者からシニア世代の男性、そして女性もいらっしゃいます。リピーターのご参加が多いけれど、初の参加という方もおみえでした。また初の取り組みで、今年度は参加者を女性限定として、自分らしさを大切にできるセミナーというテーマのおみごと活躍セミナーを3回連続講座で開催されました。この女性限定の講座は託児環境が整備されていたため、子育て中の若いお母さんが幼い我が子を預けて安心して講座に参加されていて幅広い年代の女性が参加されていました。その女性限定講座では、自分自身のだめ出しをする人たち、ふだん人の視線を気にして自分を大切にすることを見失っている女性が、楽しいグループワークに参加する中で、皆さんのお話や講師のお話を聞いて、新しい気付きがあり、自分を大切に自分を信じる力を再発見させてくれるものでした。漠然とでも何かしたい、活躍したいというテーマに心を動かされ参加した若い世代の町民、女性に出会えました。このようにターゲットを絞り込んでわかりやすく楽しい講座を開催していただけたために、今まで町の講座に参加されたことのない方に大勢ご参加していただけた成功例だと思います。

しかし、これらおみごと活躍セミナーの講座は参加してパワーを与えられた町民が講座終了でそれきりというのが少々残念に思われます。参加者の思いは人それぞれ、価値観もそれぞれでしょうが、次へのステップとして町への思いを形にする、だれかがやってくれるのを待つのではなく、自分で何かがやってみたい、そんな人たちが集

まり、話し、繋がり、整理して具体化する。思いを前へ進める、一步を一緒に踏み出す、そして活動が軌道に乗るまで行政が町民グループに寄り添ってもらえると一人一人に意識が地域を変えられるような主体的な活動が順調にスタートできやすいのになと思うのです。そして活躍し続けるために必要なことを適宜サポートしてもらえたらと。東員町の人材育成や啓発を目的とした講座で学ばれた方、力を付けた町民の方、個々に。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員、質問をしてください。

○5番（山崎 まゆみ君） 個々に講座終了後ほどよいところに継続意思確認をされて次のステップに進み、地域で活躍していただけるような手だてを検討していただくことについてはいかがでしょうか。担当課のご見解をお伺いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） これまでのシンポジウム、これは27年度からシンポジウムを2年ほどさせていただき、その後、若者会議という形でいろんなご意見をいただきました。その若者会議で育てていただいた皆さんが今現在もいろんなステージでかかわっていただいております。今後もやはり大事になってまいりますのは、おうちにこもってみえる方が少しでも来たい、また見たい、参加したい、そういったイベント、また出やすい環境として託児を設けるなど、いろんな方の参加しやすい工夫を私どもとしては今後も進めていきたい、そんなふうに思っております。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。女性限定の講座には女性でない町長も参加してみえる姿をお見かけしたのですが、町長はこのあたりについてどんなお考えでしょうか。お願いします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 先ほど部長から答弁させていただいた、例えば若者会議の皆さんは、グループでいろんな活動をしていらっしゃいます。それも自主的な取り組みをやっていただいております。この間女性限定のセミナーに私も参加させていただいて、とっても楽しく参加させていただいたんですが、多分その中でグループができて、じゃあ一人で殻を破って何か活動しようというのは、いらっしゃることはいらっしゃるんですけど少ないのではないかなと、それよりも気の合う仲間と一緒に何かをやっていこうという方がやりやすいというか、成功するのかなというふうに思っています。ですからできればああいう中で、グループワークみたいなものもあつたはずですので、その中で気の合う方同士が、何か次やってみようよという、そういう

ものが出てくるといいなというふうを感じながら見せていただきました。あのセミナーはどんどん自分の殻を破って前向きに行こうとするものだったというふうに思っていますので、あの中から何人かが何かをやってみようよという形のものが出てくるといふのを私としては期待させていただきます。もっと言うなら、そのグループで町内で新しい事業を起こす、起業をするというようなところまでいっていただければ、こんなありがたいことはないなというふうに思います。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 今ご答弁いただきましたように、せっかく東員町の方で講座を開催していただいて、受講していただいた方が、その意思のある方はその後もまちづくりにかかわっていただけるような方になっていただけることをすごく期待しておりますので、サポートの方をよろしくご検討お願いしたいと思っております。

次の質問です。この2の（3）についてなんですが、私は2月16日にいなべ市と東員町共催で開催された在宅医療介護のイベントに参加いたしました。医療と介護に関する講演会の櫃本真幸さんのお話の中で、健康とは自分らしい生き方ができるということであり、支えられる高齢者ではなくて、支える高齢者になろう、やりたいことを持ち続ける元気な高齢者が増えれば増えるほど元気なまちになるという、現役シニア世代にもこれからシニアとなる世代にも希望の持てるフレーズ、そして町の活性化に繋がる力強いお話を聞かせてもらいました。

元気な高齢者ということから、人材バンクについてのお尋ねをしたいと思います。人材バンクについては平成29年、平成30年の一般質問において、私もいたしましたし、同僚議員もされていまして。その際の答弁はどうであったかということ、時系列に、平成29年9月の答弁は、本町にはいろんな企業、職種の経験者で現役をリタイアされた多種多様な技術をお持ちの高齢者の方がたくさんみえる。町内企業、行政、地域にこうした方々の知識や技術を活用させていただく場が少なからず存在するので、こうした有用な人材を活用するため、シルバー人材センターと競合しない形でシニア専用人材バンクの立ち上げについて調整中です。関連する課で情報共有や調整をし、将来的には高齢者だけでなく、幅広い年齢層から人材を募り、様々な経験値を活用して地域課題の解決に向けて尽力いただけるような仕組みづくりを市民活動支援センター中心に検討を進めているという答弁でしたし、平成30年3月の際の答弁では、公的サービス分野で得意な分野に市民活動がかかわることは、市民生活を豊かにする上で大変重要。こうした市民活動に公的サービスの一部を委託したり、団体を支援していかなければならない。こうして行政と市民の連携が図られ、お互いの得意分野を活

用した共生社会が実現すること。将来に希望の持てる持続可能な地域社会ができ上がるということでの人材バンクに関するご答弁でしたし、平成30年12月の一般質問では、役場内で人材バンクができないか検討しているが、なかなか見えてこないというのが現実。どんなスキルを持った方が町内にいらっしゃるのか調査をしているものの、今のところまだ見えてきていない、ただこういったものが恐らく近い将来必要だと思っているので、もう一度きちっと見直して、迅速に立ち上げられるような取り組みをすべきだという答弁でした。町民の力を活用するための目的で人材バンクを検討され、調整され、かなり難産のご様子なのかなと推察されるところです。3年前に市民活動支援センターを文化センター2階に開設され、登録団体の数が年々増加している。町民の自主的な活動が進み、広がるようにと種を撒いてもらって、そして芽がはじめてきていると思います。人材バンク立ち上げにどのような課題が立ちはだかっているのでしょうか。そして課題解決の糸口は見つかりましたか。以上、人材バンクについて現在の状況についてご説明をお願いします。

○議長（三宅 耕三君） 小倉奉昭生活部長。

○生活部長（小倉 奉昭君） お答えさせていただきます。人材バンクにつきましての立ち上げで、第一段階といたしましては31年、今年ですね、2月1日に発行の東員市民活動支援センターの広報であります笑顔通信に住民の人材バンクについての意見を募集する記事を掲載させていただいております。それらを集約した基に、今後町内の有能な方、そういった方のスキルを活かしていただけるように現在準備をしておるところでございます。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 全国的に人材バンクを作っている自治体は各地あります。例えば生涯学習のために教育委員会が作られた人材銀行というような名称のところもありますし、まちづくり活動に活かす人材バンクもあります。それぞれに資格要件をきちんと設定され、人材バンクに載せてもらいたい人、本人、もしくはその人を推薦される人が登録申請書というような書類で申請し、その内容の審査があり、登録されると登録証が交付され人材バンクに載るといようなものが多いようです。何とか東員町で人材バンクが当初の目標どおりにできるとよいと思っています。

次に、2の（4）人づくり、場づくり、役割づくりについてです。住民と行政の協働の課題はお互いが対等でないからであると言われる方のお話を聞いたことがあります。住民と行政の協働がうまくいかない原因として、お互いが対等でないこと。どう

ということかと言うと、行政は住民に対し「何ができる」と上から目線、住民は「行政がお膳立てしてくれない」という他力本願的目線、ともに考えてそれぞれができることを分担してやっていくという意識にならないと、やはり協働はうまくいかないと思います。固定的な役割、分担意識が強過ぎてはだめだということでもあります。このような課題を解決するためにはどうしたらいいでしょうか。方法はありますか。ご答弁をお願いします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） これについては、行政としてはどうしても行政でなければならぬ事業というもの、そうでない事業、これをきちんと分けるということがまず第一じゃないかなと。行政でなければならぬ事業というのはもうやっぱりこれは行政でやらなければいけない。だけどそれ以外は行政でやってもだれか町民の皆さんがやっていただいてもいいというものですから、その中で例えば町民の皆さんの中で、この分野は私たちが得意だからできるよというものがあれば、いろいろ協議はしなければいけませんけれども、できるだけその方たちにお任せをしていくということをしなければいけないというふうに思います。町民の皆さんがそういう形で手を挙げていただけるかどうか問題でして、これは町民の皆さんできるでしょう、例えば自治会さんできるでしょう、こういう団体さんできるでしょう、ということで行政が出すのは、僕はだめだというふうに思います。そうじゃなくて、やる方がこれは我々が得意だからやるんだと、当然予算もつけてねと、当たり前の話だと思うんですけど、そういうことでやっていただく方から積極的にその町のまちづくりにかかわっていくんだという、そういう意識を持って行政に申し入れていただく、これが一番大事なのではないかなと。あくまでも行政サービスですから、ふつう今までは行政がやってきたことですね、だけどそれは行政サービスといえども、行政がやらなくてもいいでしょうというのはあるんですよ。そういうものついてこれは渡してくださいよというのをある程度積極的に町民の皆さんから言っていただくことが必要なのではないかなというふうに思います。そうなると行政とその町民の方との相談なり、協議なりが始まって、いろいろな意見交換を経て、理想の形になっていくのではないかなというふうに思っていますので、ぜひ町民の皆さんも積極的にご参加いただければなというふうに思います。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 町長の答弁に私も共感するところでございます。東員町の事業、行政でなければやらない事業はこんなもの、そして町民の方にも任せら

れるよというような事業はこんなものというように、東員町の事業を事業仕分けとかでもして、わかりやすく町民が担える部分、やっていこうという気持ちをさらに高めていただけるといいなというような気がした次第でございます。

そしてこの件について別件なんですけれども、10年ほど前に、佐藤前町長の時代に東員町が協働のあり方を模索されていたころ、東員町協働委員会という取り組みがありました。そこで教育分野、福祉分野、総務分野、子育て支援分野などの分野別に分かれて、分野ごとでの行政と町民の協働のあり方をグループワークで議論したり、調査したり、実践活動をしてその結果をまとめて町長に提言しました。その協働委員会の各分野の町民グループのアドバイザー役を当時務められていたのが町長就任前の水谷現町長でした。住民グループ活動のサポートのためにアドバイスが必要だと思われるのですが、そんな団体への支援は現在は市民活動支援センターということになるのでしょうか、ご答弁をお願いします。

○議長（三宅 耕三君） 小倉奉昭生活部長。

○生活部長（小倉 奉昭君） 今おっしゃいましたように、教育に関する事とか、それからまちづくりに関することとか、あるいは農業分野など広く活躍をしていただける仕組みづくりが必要ではないかと考えております。またその笑顔通信を先ほども言わせていただきましたが、掲載しておりますことから広く周知をして、そういった方を募集するようなことを団体に支援して手助けとさせていただいておりますし、また住民の方が気軽に市民活動支援センターの方へお越しいただいて、そこから団体の方へ登録されるとか、先ほどの人材バンクに登録されるとかといったそういったことを気軽にお越しいただけるような場所として活動していきたいと考えております。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 今、部長が答弁されたように、市民活動支援センターが今まで以上に町民の方に、活動内容を周知されて集われる町民が増えることを期待しております。

そして最後の再質問をしようと思うんですが、第5次東員町総合計画において、基本施策6の1で町民参画のまちづくりという項の中で、これまで以上に町民参画のしやすい行政サービスを進め、町民と行政の協働のまちづくりを進める必要があるという文言があります。次期の東員町総合計画策定が近づいていますが、この点についてどのように進んでいますでしょうか。わかる範囲でご答弁をお願いしたいと思います。

○議長（三宅 耕三君） 小川裕之副町長。

○副町長（小川 裕之君） 次期の東員町総合計画の件でございますけれども、現



在の総合計画が平成がなくなりますけども、平成32年度で終了いたしまして、平成で言えば33年度、西暦で言えば2021年から新たな総合計画ということになると思います。これをどうしていくのかにつきましては、現在政策課を中心に検討しているところでございます、6月の補正予算に必要な経費は掲げようというふうには思っています。町長選挙が終わって以降になりますけど、そうでないと上げられませんので、そういう形で進めていこうというふうに思っております、内容的には先ほど町民参画のまちづくりの考え方については町長がおっしゃったような形になっていくのではないのかなというような、具体的なところはまだこれから検討ですけども、大きな流れとしてはそういう形になっていくんではないかというふうに思っております。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。本日の議論で執行部のお考えも自分の考えもほぼ近いかなというふうに思うところなのですが、さらに町民が担える仕事、先ほども申し上げましたが、業務の洗い出し、一人一人の力が活かせる環境、町民一人一人が活かされる、そして活かすために社会参加活動、ボランティア活動が今までよりもまたさらにさらに活発になっていくことをこれからそういう時代ではないかなというふうに思います。地域を暮らしやすくするために実践活動を行うということを地域の皆さんが考えること。地域の皆さん10人集まれば多様な問題意識が、いろんな様々な問題意識があると思います。町民、そして行政のお互いの得意分野を活かす。それぞれの役割、そして責任も持つこと。それぞれが責任を持つこと。町民も責任を持つこと。そして共生社会の実現。町民と行政がお互いウイン・ウインの関係で高齢者の方がお元気で地域で活躍してみえる姿を見れば、次世代を担う若者にも希望を与えることができるはずです。協働によるまちづくりを今まで以上に進められるよう、私も取り組んでいこうと思います。

これで私の3月の一般質問を終わらせていただきます。